

第2章 地域福祉に関連する市の状況

1. 人口
2. 高齢者の状況
3. 障害者の状況
4. 児童の状況
5. 生活保護の状況
6. 生活困窮者の自立支援
7. 子どもの貧困対策
8. 自治会の声
9. 民生委員・児童委員の声
10. 市民の声（市民ワークショップより）
11. 子どもの状況（中学生へのアンケート調査より）
12. 市民意識調査の集計結果より
13. 地域福祉計画審議会委員からの意見のまとめと今後の方向性

【第2章 地域福祉に関連する市の状況】

1. 人口

(1) 人口の推移

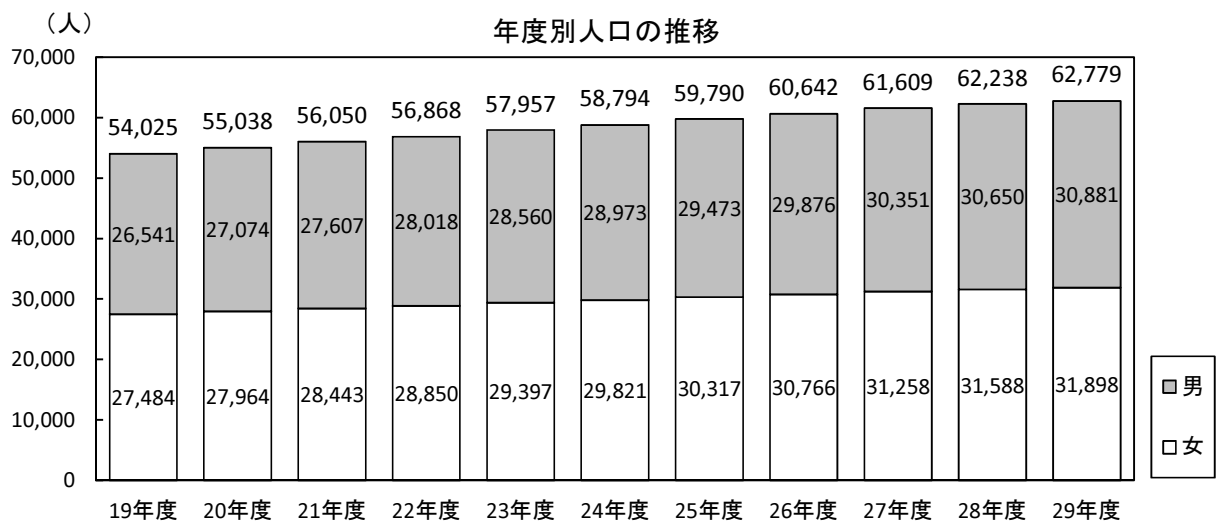
本市の総人口は、平成19年は54,025人でしたが、年々増加する傾向にあり、平成29年には62,779人と6万人を超えています。

年度別人口の推移

(単位：人)

	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年
男	26,541	27,074	27,607	28,018	28,560	28,973	29,473	29,876	30,351	30,650	30,881
女	27,484	27,964	28,443	28,850	29,397	29,821	30,317	30,766	31,258	31,588	31,898
計	54,025	55,038	56,050	56,868	57,957	58,794	59,790	60,642	61,609	62,238	62,779

資料：住民基本台帳行政区別人口（各年度3月末現在）



(2) 人口構成

人口構成(平成29年3月末現在)を見ると、年少人口(15歳未満)が12,577人(構成比20.0%)、生産年齢人口(15歳～64歳)が39,462人(構成比62.9%)、老年人口(65歳以上の高齢者)が10,740人(構成比17.1%)となっています。

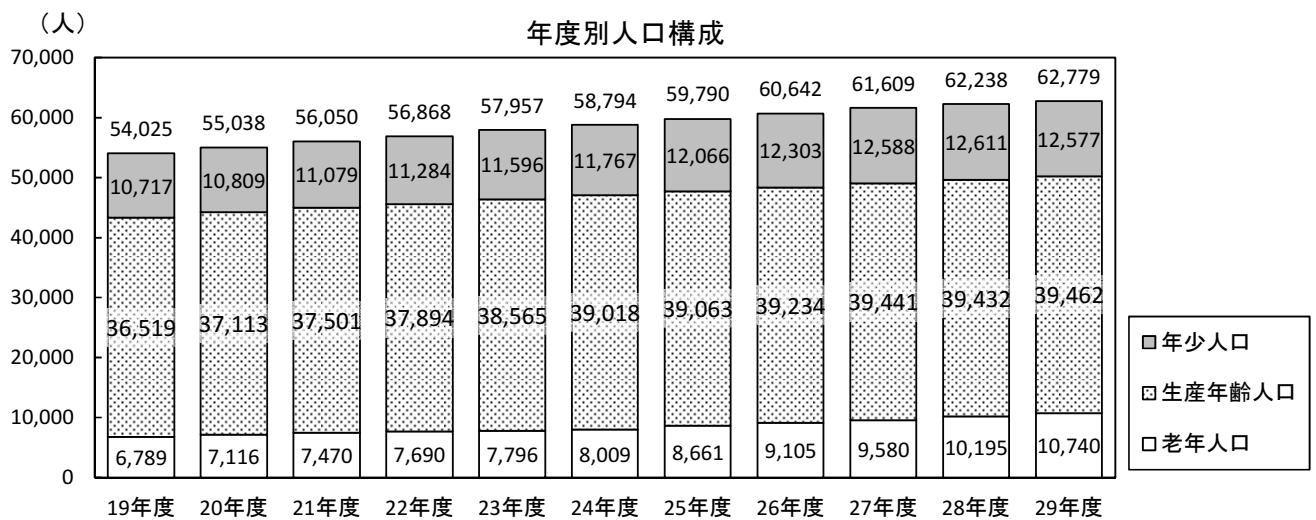
年齢3区分別の構成比(年少人口、生産年齢人口、老年人口)を見ると、年少人口(15歳未満)の占める割合は20%程度で微増傾向、生産年齢人口(15～64歳)の占める割合は減少傾向、老年人口の占める割合は上昇傾向で推移しています。平成29年では、老年人口は17.1%となっています。

年度別人口構成

(単位：人、%)

	平成 19年	平成 20年	平成 21年	平成 22年	平成 23年	平成 24年	平成 25年	平成 26年	平成 27年	平成 28年	平成 29年	
総人口	54,025	55,038	56,050	56,868	57,957	58,794	59,790	60,642	61,609	62,238	62,779	
年少人口	10,717	10,809	11,079	11,284	11,596	11,767	12,066	12,303	12,588	12,611	12,577	
生産年齢人口	36,519	37,113	37,501	37,894	38,565	39,018	39,063	39,234	39,441	39,432	39,462	
老年人口	6,789	7,116	7,470	7,690	7,796	8,009	8,661	9,105	9,580	10,195	10,740	
構成比	年少人口	19.8	19.6	19.8	19.8	20.0	20.0	20.2	20.3	20.4	20.3	20.0
	生産年齢人口	67.6	67.4	66.9	66.6	66.5	66.4	65.3	64.7	64.0	63.4	62.9
	老年人口	12.6	12.9	13.3	13.5	13.5	13.6	14.5	15.0	15.5	16.4	17.1

資料：住民基本台帳行政区別人口（各年3月末現在）



(3) 中学校区別の人口

中学校区別の人口を見ると、平成29年度には豊見城中学校区が2万7千人を超えており、この地区で市全体の4割を占めています。伊良波中学校区は2万人、長嶺中学校区は1万4千人となっています。

中学校区別の人口

(単位：人)

		平成 22年	平成 23年	平成 24年	平成 25年	平成 26年	平成 27年	平成 28年	平成 29年
豊見城 中学校区	総人口	25,308	25,834	25,983	26,357	26,562	26,950	27,209	27,314
	年少人口	5,523	5,640	5,663	5,753	5,793	5,933	5,938	5,924
	生産年齢人口	16,847	17,156	17,181	17,157	17,123	17,189	17,151	17,043
	老年人口	2,938	3,038	3,139	3,447	3,646	3,828	4,120	4,347
長嶺 中学校区	総人口	14,319	14,323	14,395	14,525	14,661	14,754	14,790	14,842
	年少人口	2,473	2,462	2,422	2,434	2,460	2,448	2,425	2,373
	生産年齢人口	9,580	9,582	9,636	9,587	9,566	9,529	9,440	9,408
	老年人口	2,266	2,279	2,337	2,504	2,635	2,777	2,925	3,061
伊良波 中学校区	総人口	17,241	17,800	18,416	18,908	19,419	19,905	20,239	20,623
	年少人口	3,288	3,494	3,682	3,879	4,050	4,207	4,248	4,280
	生産年齢人口	11,467	11,827	12,201	12,319	12,545	12,723	12,841	13,011
	老年人口	2,486	2,479	2,533	2,710	2,824	2,975	3,150	3,332

資料：住民基本台帳行政区別人口（各年3月末現在）

2. 高齢者の状況

(1) 高齢化の現状

本市の平成28年10月1日現在の高齢化率は16.6%で、緩やかに上昇する傾向となっています。また、高齢者単身世帯は2,109戸であり、増加を続けています。

高齢化の現状

区分	平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年	平成 28 年
総人口（人）	60,515	61,426	62,262	62,741
高齢者人口（人）	8,874	9,324	9,877	10,404
高齢化率（%）	14.7	15.2	15.9	16.6
高齢者単身世帯（戸）	1,879	2,029	2,075	2,109
高齢者世帯（戸）	1,398	1,508	1,650	1,767

※高齢者人口＝65歳以上の人口

（各年10月1日現在）

※高齢者世帯とは、65歳以上での者のみで構成するか、又はこれに18歳未満の者が加わった世帯。

(2) 老人クラブ

老人クラブの加入者数は年々減少しており、平成23年度は996人でしたが、平成28年度には955人と、40人程度減っています。また、老人クラブ数は、平成28年度は22か所となっています。

老人クラブ活動の充実

（単位：人、クラブ数、千円）

区分	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度	28 年度
60 歳以上人口	11,384	11,913	13,049	13,516	14,057	14,540
老人クラブ数	21	23	23	20	22	22
会員数	996	1,056	1,023	940	955	955
市老連運営費補助金	943	943	943	943	943	943
市老人クラブ活動費補助金	1,279	1,346	1,346	1,263	1,307	1,306

資料：「福祉事務所の概要」より

3. 障害者の状況

(1) 身体障害者

身体障害者手帳の所持者について見ると、所持者数は年々増加しており、平成28年度では2,122人となっています。等級別に見ると、最重度に当たる「1級」の占める割合がもっとも高く、4割近くとなっています。

身体障害者(児)の等級別推移(身体障害者手帳所持者) (単位:人、%)

	平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
1級	583	35.38	694	36.03	699	34.90	735	37.14	760	37.38	820	38.64
2級	310	18.81	365	18.95	387	19.32	376	19.00	375	18.45	378	17.81
3級	294	17.84	335	17.39	351	17.52	332	16.78	335	16.48	331	15.60
4級	312	18.93	366	19.00	385	19.22	366	18.49	385	18.94	401	18.90
5級	69	4.19	76	3.95	80	3.99	81	4.09	88	4.33	96	4.52
6級	80	4.85	90	4.67	101	5.04	89	4.50	90	4.43	96	4.52
総数	1,648	100.00	1,926	100.00	2,003	100.00	1,979	100.00	2,033	100.00	2,122	100.00

資料:「福祉事務所の概要」より(各年度3月末現在)

(2) 知的障害者

知的障害者を療育手帳の所持者数から見ると、所持者数は平成28年度で572人となっています。障害の程度については、中度・軽度にあたる「B判定」が多く、手帳所持者の7割近くを占めています。

知的障害者(児)の等級別推移(療育手帳所持者) (単位:人、%)

	平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
最重度(A1)	15	4.78	41	9.19	42	9.01	46	9.15	47	8.83	51	8.92
重度(A2)	72	22.93	107	23.99	110	23.61	117	23.26	120	22.56	121	21.15
中度(B1)	98	31.21	129	28.92	137	29.40	145	28.83	150	28.20	157	27.45
軽度(B2)	129	41.08	169	37.89	177	37.98	195	38.77	215	40.41	243	42.48
総数	314	100.00	446	100.00	466	100.00	503	100.00	532	100.00	572	100.00

資料:「福祉事務所の概要」より(各年度3月末現在)

(3) 精神障害者

精神障害者数を精神障害者保健福祉手帳の所持者数から見ると、所持者数は平成28年度で571人となっており、年々増加しています。障害の程度については、中程度にあたる「2級」が最も多く、平成28年度では手帳所持者の5割半ばを占めています。

精神障害者(児)の等級別推移 (精神保健福祉手帳所持者)

(単位：人、%)

	平成 23 年度		平成 24 年度		平成 25 年度		平成 26 年度		平成 27 年度		平成 28 年度	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
1 級	80	21.74	92	22.77	106	24.31	123	26.06	130	24.67	140	24.52
2 級	233	63.32	252	62.38	253	58.03	263	55.72	301	57.12	319	55.87
3 級	55	14.95	60	14.85	77	17.66	86	18.22	96	18.22	112	19.61
総数	368	100.00	404	100.00	436	100.00	472	100.00	527	100.00	571	100.00

資料：「福祉事務所の概要」より(各年度3月末現在)

4. 児童の状況

(1) 児童数の推移

15歳未満の年少人口は、増加で推移しており、平成29年では12,577人となっています。総人口に占める割合は20%であり、平成20年以降では僅かながら上昇が見られます。また、就学前児童数は5,246人、小学生は5,053人、中学生は2,278人となっています。

児童数の推移

(単位：人、%)

	20 年度	21 年度	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度	28 年度	29 年度
年少人口	10,809	11,079	11,284	11,596	11,767	12,066	12,303	12,588	12,611	12,577
総人口に占める割合	19.6	19.8	19.8	20.0	20.0	20.2	20.3	20.4	20.3	20.0
0～5 歳児 (就学前児童数)	4,492	4,650	4,768	4,957	5,107	5,255	5,357	5,387	5,362	5,246
6～11 歳児 (小学生)	4,347	4,373	4,438	4,464	4,521	4,613	4,653	4,871	4,928	5,053
12～14 歳 (中学生)	1,970	2,056	2,078	2,175	2,139	2,198	2,293	2,330	2,321	2,278

資料：住民基本台帳行政区別人口 (各年 3 月末現在)

(2) 出生数の推移

出生数は平成28年度で830人であり、平成20年度以降では、21年度と23年度に次ぐ低い値となっています。

出生数の推移

(単位：人)

	20 年度	21 年度	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度	28 年度	29 年度
年少人口	873	815	871	816	904	934	884	881	830	

※平成25年度は平成24年10月と平成25年10月より按分した値

5. 生活保護の状況

(1) 保護の推移

生活保護業務開始以来、保護世帯、保護人員、保護率とも増加しており、平成23年度に保護人員と保護率が減少したものの、翌24年度以降は再び増加に転じております。

被保護世帯数(年度平均)は、平成28年度に501世帯で平成18年度(289世帯)の約1.7倍に増加しています。

また、被保護人員(年度平均)は、平成28年度に682人と平成18年度(494人)の約1.4倍になっています。

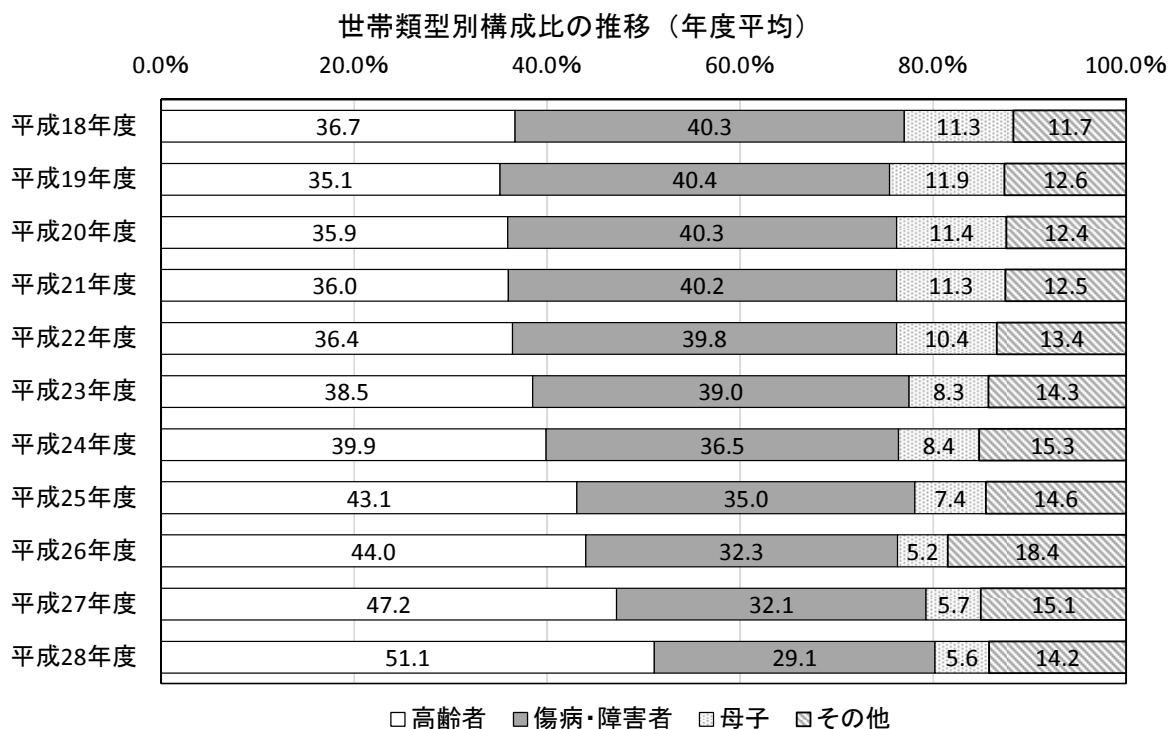
被保護世帯、被保護人員、保護率の推移(年度平均) (単位:人、世帯、%)

年度	管内人口	被保護世帯	被保護人員	保護率
平成18年度	53,843	289	494	9.18
平成19年度	54,842	306	541	9.87
平成20年度	55,850	321	551	9.86
平成21年度	56,743	342	579	10.21
平成22年度	57,726	376	632	10.94
平成23年度	58,727	403	608	10.36
平成24年度	59,601	422	622	10.44
平成25年度	60,392	436	638	10.56
平成26年度	61,425	463	648	10.55
平成27年度	62,285	480	661	10.61
平成28年度	62,765	501	682	10.87

資料: 沖縄県福祉保健企画課「生活保護統計時系列分析表」より

(2) 世帯類型別構成比

「高齢者世帯」が最も多く、次いで「障害者・傷病者世帯」、「その他世帯」、「母子世帯」の順となっています。また、平成18年度から平成28年度までの間の被保護世帯数の推移を世帯類型別にみると、「高齢者世帯」が平成20年度より増加しています。また、「母子世帯」では、平成18年度の11.3%から平成28年度の5.6%と半分程度に減少しています。



6. 生活困窮者の自立支援

生活困窮者自立支援制度は、生活困窮者の自立の促進を図ることを目的に、市町村等が生活困窮者自立相談支援事業の実施、生活困窮者住居確保給付金の支給その他の生活困窮者に対する自立の支援に関する事業を実施しています。市では、以下の事業を実施しています。

① 自立相談支援事業

専門の支援員が、生活に困りごとや不安を抱えている方(生活困窮者)の相談を受けて、どのような支援が必要かを相談者と一緒に考え、具体的な支援プランを作成し、相談者に寄り添いながら自立に向けた支援を行います。

② 住居確保給付金の支給

離職等により住居を失った方、又は失うおそれのある方に、生活の土台となる住居を確保した上で就職に向けた支援を行うため、就職に向けた活動を行うこと等を条件に、一定期間、家賃相当額を支給します。

③ 就労準備支援事業

直ちに就労することが困難な方に、一定期間、一般就労に向けた基礎能力等を養うためのプログラムを提供する等、就労に向けた支援や就労機会の提供を行います。

④ 家計相談支援事業

相談者の早期の生活再生を支援するため、家計の根本的な課題の把握と家計状況を分かりやすくするための家計状況の「見える化」を行い、相談者が自ら家計を管理できるようにするために、状況に応じた支援計画の作成や関係機関へのつなぎを行い、必要に応じて貸付の斡旋等を行います。

⑤ 一時生活支援事業

生活に困窮している住居を持たない人に、一定期間宿泊場所や衣食の提供を行います。

7. 子供の貧困対策

(1) 子供の貧困対策事業の実施

市の子供の貧困対策は、沖縄県子どもの貧困対策計画の考えを基本的に踏襲し、市内に生活する全ての子供達が、経済的な要因等、その子の生まれ育った環境等により将来の可能性が閉ざされることなく、夢と希望を持って成長していけることを目標に、事業の実施を行っています。

子供の貧困対策は、支援を要する緊急度の高い子供に対して優先的に施策を講じるよう配慮する必要があるため、現在豊見城市では、事業の対象者を生活保護もしくは就学援助を受給している世帯の子供等とし、他に優先して事業を行っています。

市では、具体的に以下の事業を実施しています。

① 子供の貧困対策支援員事業

地域に出向いて子供の貧困に関する市内各地域の現状を把握し、学校、学習支援施設及び居場所づくりを行うNPO等の関係機関との情報共有を行い、子供を支援につなげるための調整等を行うための人員として、子供の貧困対策支援員を配置しています。中学校区ごと（3中学校区）に各1名、主に生活保護受給世帯の担当1名、計4名の支援員を配置しています。

支援員の配置事業では、支援員の養成、質の向上を図ることを目的に、支援員の研修も行っています。

② 子供の居場所の運営支援事業

子供の居場所を提供するため、子供の居場所の運営支援を行っています。居場所では、子供達に食事の提供、共同での調理、生活指導、学習支援及び就学継続のための支援を行うとともに、子供のキャリア形成等の支援を随時行っています。

(2) 支援事業実績

【子供の貧困対策支援員事業】

支援員による支援の対象となった者(要支援者)の数

(単位：人)

年度	要支援者数
平成28年度	273

【子供の居場所の運営支援事業】

居場所の利用(支援)者数

(単位：人)

年度	居場所1	居場所2	居場所3	居場所4	居場所5	合計
平成28年度	4,580	1,542	1,276	617	332	8,347

8. 自治会の声

地域の自治会から地域福祉に関する声や意見等をいただきました。

地域の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・アパート世帯が多くなっている。住んでいる方の状況がわからない。 ・地域活動への参加が消極的になってきている地域が多い。 ・老人クラブ、子ども会などへの加入が減少している。 ・1人暮らし高齢者：訪問しても返答がない人がいる。 ・高齢者の情報は役所から入るが、障害者の情報が得にくい。
自治会	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会加入者が高齢化している。 ・アパート世帯の加入率が非常に低い。 ・若い世代が未加入、地域行事などに参加しない。 ・役員のなり手がいない、若手の役員がいない。
公民館	<ul style="list-style-type: none"> ・車椅子の利用が難しい。 ・誰もが気軽に参加する行事の実施。 ・子どもたちも利用しやすいような場にしたい。 ・公民館のミニデイ：歩けないなど通えない人がいる。 →参加者が減ってきている。(公民館まで送迎必要)
地域福祉における課題	<ul style="list-style-type: none"> ・若い世代、高齢者など、地域活動にいかにして参加してもらおうか。 ・高齢者を孤立させない工夫。 ・一人暮らし高齢者や障害者への見守り、声かけが必要。 ・地域での子ども見守り（防犯対策、非行防止など）。 ・地域でサポートが必要な人の把握を行い、支えていく必要がある。 ・地域ボランティアがもっといたら、より活動しやすい（民生委員）。 ・福祉協力員をもっと増やしてほしい。 ・高齢者サロンなど、つどいの場を身近な地域でしたらいいと思う。 ・買い物支援などが必要ではないか（移動手段、配達……）。 ・子どもの貧困対策にもっと力を入れるべきではないか。 ・認知症高齢者が増えることが予想される。対応方法を考えなくては。

9. 民生委員・児童委員の声

民生委員・児童委員の方々から、困りごとや意見等をいただきました。

民生委員・児童委員の困り事	<ul style="list-style-type: none">・民生委員・児童委員の担い手がない。・個人情報保護などからスムーズな活動に支障がある。・情報が少ない（一人暮らし、障害者、生活困窮などの支援が必要な世帯の状況がわからない）。・支援が続かない（訪問に応じない、家族が非協力的、支援を受けたがらない）。
民生委員・児童委員で今後必要なこと	<ul style="list-style-type: none">・地域の実情把握（一人暮らし、見守りが必要な世帯等の把握）。・民生委員・児童委員の資質向上（意識向上、研修等による資質向上、サービスや制度等の理解）。・地域とふれ合う機会を持つ。
行政への要望等	<ul style="list-style-type: none">・情報共有・情報提供（地域の情報、福祉に関する情報）。・個人情報が入手できなくて民生委員・児童委員の活動が難しい。・民生委員・児童委員の確保（足りない）。・市民への民生委員・児童委員の活動の周知。

10. 市民の声（市民ワークショップより）

- ・第3次豊見城市地域福祉計画を策定するにあたり、地域住民の抱える地域課題や解決策についての意見把握を行うとともに、ワークショップ形式で地域課題について話し合い、「自助・共助・公助」の意識向上を図ることを目的として実施しました。

◎主な意見等

- 自治会への加入、行事参加者の減少、転入者や若い世代の状況が見えない、この先の自治会運営への不安、困っている方の様子がわからない
→加入促進、個人情報（地域に住んでいる人の情報）がほしい、誰もが参加しやすい行事の検討
- 地域の高齢化、独居高齢者世帯の見守りが必要、地域での話し合いの場が必要
→見守り隊や応援隊を作って支援をする、高齢者のサロンを開催するなど
- 子どもが少ない、子どもとの接点が少ない、子どもたちが遊ぶ場がない
→子どもの見守りを充実、世代間交流、近所に公園を作って欲しい
- 移動交通の課題
→小型バスで地域の中まで（玄関先まで）入ってきてほしい、交通安全の充実



(1) 長嶺中学校区

①とよみ小学校区

項目	地域課題（困っていること）	自分たちにできること／支援してほしいこと
子ども	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども会に参加する子どもが少なくなっている ・同じアパートでも子供同士で遊ぶことがない ・子ども会を手伝ってくれる親が少ない ・子どもたちが思い切り遊べる広い公園が近所がない 	<p><自分たちにできること></p> <ul style="list-style-type: none"> ・親子で参加できるイベントの開催 <p><支援してほしいこと></p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校区ごとに大きな公園をつくってほしい
高齢者・障がい者	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の移動手段。スーパーが遠くて不便（車運転できない、足が痛くて歩けない） ・独居高齢者の見守り ・高齢者の見守りは民生委員だけでは大変難しいと思う。 	<p><自分たちにできること></p> <ul style="list-style-type: none"> ・見守り隊をつくりパトロールする <p><支援してほしいこと></p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内バスが公民館前で停留するようにしてほしい ・交通の便がない方のためにコミュニティバスをつくり、家の玄関先まで送迎してほしい
地域の支え合い	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会行事の参加者が少ない ・近所の人がわからない 	<p><自分たちにできること></p> <ul style="list-style-type: none"> ・集会所で集まれるイベントをする（健診など） ・近所で困っている人に声をかける 向こう三軒両隣 ・大人、子どもが集まる機会を作る
その他	—	—

良いところ

- ・カレー食堂を毎月1回やっている地区がある
- ・祭りには自主的に手伝いに来る人がいる
- ・スーパー、病院、学校が近くにある



②長嶺小学校区

項目	地域課題（困っていること）	自分たちにできること／支援してほしいこと
子ども	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもとの接点がない（学校も親が送迎） ・ラジオ体操で子どもがいっぱいいると初めて知った 	<p><自分たちにできること></p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの登校時の交通整理、見守り ・ラジオ体操の見守り
高齢者・障がい者	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者世帯の増加 ・高齢者が地域のミニデイに関心がなく参加者も少ない ・男性の参加が圧倒的に少ない ・個人情報に邪魔をして地域を把握できない 	<p><自分たちにできること></p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>飲み会でも何でもいから、男性を地域に出すように</u> <p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・男性を地域に出すように、飲み会等開催する。
地域の支え合い	<ul style="list-style-type: none"> ・催し物への参加者が固定している ・自治会員であるが自治会行事への参加が少なくなっている（清掃作業） ・自治会へのアパート世帯や新規居住者の加入 	<p><自分たちにできること></p> <ul style="list-style-type: none"> ・サロンを増やす
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・車を持っていないと生活できない。バス停まで遠い ・ひとり親家庭が近年増えている ・自治会員名簿作成したいが、プライバシーの関係か提出しない方がいる ・坂道が多く、買い物不便 	<p><支援してほしいこと></p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内一周バスを小さくして小回りにしてほしい（ミニバス）

良いところ
<ul style="list-style-type: none"> ・夜間パトロール 週1回 ・鯉のぼり掲揚式を開き、新1年生にプレゼントを送っている（自治会加入、未加入関係なく） ・地域の公民館駐車場に移動販売車が来て商品を買える

(2) 伊良波中学校区

①座安小学校区（他小学校区住民との混合テーブル）

項目	地域課題（困っていること）	自分たちにできること／支援してほしいこと
子ども	<ul style="list-style-type: none"> ・家族間で会話の場が少なくなっている ・安全に遊べる場所がない ・アパートの住民に気になる家庭がある（子どもの育成） 	—
高齢者・障がい者	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化率がどんどん高くなっている。数年後の地域運営がうまくいくだろうか ・高齢者でも年代が違くと、趣味や趣向が異なる。ひとくくりにはできない 	<p><支援してほしいこと></p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者団体への参加呼びかけ→活動が活発になり楽しくなるように（財政的援助が欲しい）
地域の支え合い	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会加入が少ない ・地域行事の参加者が決まっている 	<p><自分たちにできること></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自治会の活性化や行事等で役員会に意見を出している ・自治会の行事がきまっている ・メリットを作る ・リーダーの育成
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・通学路に歩道がなくて危険 ・緊急時、防災訓練していないので不安 	—

良いところ

- ・子供会活動はビーチパーティやエイサーなど活発
- ・子どもたちが挨拶してくれる
- ・高齢者を見守っていただいている近所の方がいる
- ・朝の交通安全のために登校時に立っている方がいる

②豊崎小学校区（他小学校区住民との混合テーブル）

項目	地域課題（困っていること）	自分たちにできること／支援してほしいこと
子ども	<ul style="list-style-type: none"> ・親としての子供の躰ができていない（あいさつなど） 	<p><自分たちにできること></p> <ul style="list-style-type: none"> ・サロンを作る <p><支援してほしいこと></p> <ul style="list-style-type: none"> ・公民館を建ててほしい ・ビーチにバスケットリングを増やしてほしい
高齢者・障がい者	<ul style="list-style-type: none"> ・ミニデイに参加する人が少ない。特に男性 ・老人会に誘っても入会しない 	<p><自分たちにできること></p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し合いの場を持つ
地域の支え合い	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民のあいさつ ・行事に参加する人が減っている ・困っている人の様子がわからない ・自治会の役員なり手がいない 	<p><自分たちにできること></p> <ul style="list-style-type: none"> ・住民のアンケートを取る ・サロンを作る
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・交通が不便 ・バスの利用者が少ない。停車する場がない ・公民館がない ・日陰がない 	<p><支援してほしいこと></p> <ul style="list-style-type: none"> ・バスの本数を増やす、住宅地まで入るようにしてほしい ・公民館を建ててほしい ・日陰のある樹がほしい

良いところ

- ・若い人が多い
- ・一人暮らし高齢者を隣近所が面倒を見ている（買い物の手伝いなど）
- ・行事が色々ある

③伊良波小学校区（平和台、上田県営の方が多いテーブル）

項目	地域課題（困っていること）	自分たちにできること／支援してほしいこと
子ども	—	・カレーパーティーを実施している （子ども会と老人会で）
高齢者・障がい者	・経済的に困っている家庭があるが、支援、できることは？	—
地域の支え合い	・カラオケへの女性の参加が少ない ・ミニデイは男性の参加が少ない	<自分たちにできること（支援してほしいこと）> ・市民の行動をバックアップする体制をつくる ・相談できる窓口を多くつくる ・リーダー養成講座等を開く
その他	・未成年のタバコ、飲酒など ・大人のタバコポイ捨て ・迷惑駐車	—

良いところ

- ・夏休みの学習会
- ・子どもたちはよく挨拶をする
- ・夏祭りは各団体が協力していて盛り上がっている
- ・ミニデイやカラオケがある
- ・公民館でのコンサート
- ・一人暮らしの高齢者や高齢者夫婦に対して、困り事相談事業を実施している



(3) 豊見城中学校区

①ゆたか小学校区

項目	地域課題（困っていること）	自分たちにできること／支援してほしいこと
子ども	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの遊び場が少ない(車が多くて危険) ・学校周辺で不審者が時々歩いている ・学校と保護者とのコミュニケーションができていない 	<p><自分たちにできること></p> <ul style="list-style-type: none"> ・交通量が多く、見守り活動の参加者を増やして対応したい <p><支援してほしいこと></p> <ul style="list-style-type: none"> ・交通安全の看板をたくさん設置してほしい
高齢者・障がい者	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者世帯を訪問しても返答がない、会えない ・高齢化が目立ち、今後の地域の運営が心配 	—
地域の支え合い	<ul style="list-style-type: none"> ・自転車やオートバイの盗難がある ・地域のリーダーの養成 ・民生委員の欠員 ・各行事に決まった人しか来ない ・老人会の加入が少ない、役員のなり手がいない 	<p><支援してほしいこと></p> <ul style="list-style-type: none"> ・防犯カメラをつけてほしい
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールゾーンが地すべりしていて危険なところがある 	—

良いところ

- ・小学生の下校の見守り
- ・寺子屋学習の支援



②上田小学校区

項目	地域課題（困っていること）	自分たちにできること／支援してほしいこと
子ども	<ul style="list-style-type: none"> ・子育てに不安を抱えている ・子どもが思い切り遊べる場所がほしい ・交通安全が気になる ・交流の場が少ない(コミュニティセンター) 	<p><支援してほしいこと></p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティセンター(児童館)をつくってほしい
高齢者・障がい者	<ul style="list-style-type: none"> ・急な坂が多く、気をつけて歩かなくてはならない ・認知症の方を地域がどう見守っていくか ・介護疲れで悩んでいる人がいる 	<p><支援してほしいこと></p> <ul style="list-style-type: none"> ・要介護までいかない人の通院方法を考えてほしい ・高齢者の玄関先まで送迎してくれるコミュニティバス
地域の支え合い	<ul style="list-style-type: none"> ・マンションで、別の階はどんな人が住んでいるかわからない ・転入者との交流がない、近所付き合いが希薄 ・自治会に未加入なので行事参加しづらい ・自治会の加入率が低い ・若い自治会員が少ない 	<p><自分たちにできること></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自治会、福祉推進委員会等で集まり、地域の話合いを持つ ・社協が地域福祉推進委員会を引っ張る <p><支援してほしいこと></p> <ul style="list-style-type: none"> ・マンションやアパートどんどん建つが、行政の支援が追いついていない
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉推進委員会の役割が全く理解されていない ・通勤時の交通渋滞 ・一人暮らし高齢者や障害者、生活困窮世帯の実態把握（個人情報の問題） 	<p><支援してほしいこと></p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティセンター(児童館)をつくってほしい ・民生委員の負担を軽減してほしい

良いところ

- ・子どもたちが部活等で良い成績を残し頑張っている
- ・地域の人が近所の子供達に声掛けしてくれる

③豊見城小学校区

項目	地域課題（困っていること）	自分たちにできること／支援してほしいこと
子ども	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの貧困問題に気づいても個人で対応は難しい ・子どもがあいさつをしない ・児童館がない 	<p><自分たちにできること></p> <ul style="list-style-type: none"> ・大人があいさつ運動を行う（声かけ） <p><支援してほしいこと></p> <ul style="list-style-type: none"> ・街灯が少ないので、設置してほしい ・社協の支援活動の周知が必要 ・児童館が地域にないのでつくってほしい
高齢者・障がい者	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者世帯が多くなっている ・1人暮らし老人が増えている ・接点のない高齢者をどうするか？ ・サロンを作りたいが予算がない ・緊急医療講座などやってほしい（地域の公民館で） 	<p><自分たちにできること></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域で応援隊がつかれるといい
地域の支え合い	<ul style="list-style-type: none"> ・若者が地域の一員として活動するつながりが少ない ・若い世代の参加が少ない ・地域行事に参加しづらい ・一緒に活動できる人がいない 	<p><自分たちにできること></p> <ul style="list-style-type: none"> ・交通安全指導のボランティアがいて安全 ・福祉推進委員会は毎月定例化している
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・未だによそ者扱いされる場合がある ・交通の便が悪い、バスの市内線を増やしてほしい ・違法駐車が多い ・朝夕の交通量が多い 	<p><支援してほしいこと></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップを広く市民に知らせるべき

良いところ

- ・近所の子供達がよく挨拶してくれる いろいろおしゃべりする
- ・公園が近くにあり嬉しい
- ・見守り体制がある
- ・二世帯住宅が増えた、小さい子供が増えた
- ・元気な高齢者の孫たちへのかかわりが積極的である
- ・世代間交流を長くやっている

11. 子どもの状況（中学生へのアンケート調査より）

・本計画策定にあたり、子どもたちが日頃の生活において感じていることや困り事等を把握しました。市内の中学2年生を対象に行っています。

◎回収状況 配布：約760件 回収：675件 回収率：88.8%（学校を通じて配布・回収）

(1) 声のまとめ

学校にクーラーを設置してほしい (多数)	<ul style="list-style-type: none"> 暑くて勉強どころではない。 各学校各教室にクーラーを設置してほしい。 クーラーを付けてください・授業に集中できません。 	教室にクーラー設置が求められている
治安、騒音	<ul style="list-style-type: none"> バイクの騒音がうるさい。 不審者がいる。 不法投棄があつて困っている。 	「防犯に関する取り組み」が求められている
道路・街灯	<ul style="list-style-type: none"> 街灯をつけてほしい。 道が暗くて危険である。コンビニなど明るい店がない。 学校まで遠い。 坂道が多い。 	
利便性	<ul style="list-style-type: none"> スーパーやコンビニなどがあつて便利である。(多数) 	
地域・あいさつ	<ul style="list-style-type: none"> 地域の人がやさしい。 近所の人、話しかけやすい あいさつをしてくれるから安心である。 	隣近所のあいさつなどがあり、地域が安心できる場という声が見られる
環境	<ul style="list-style-type: none"> 自然が豊か。 海が近くて良い 	海など「自然」が市の良い所という回答が多い。ゴミ拾いなど環境美化等の取り組みを子ども参加(地域・学校)で行うことも良いのではないかな。
大型店、さらなる利便性、娯楽	<ul style="list-style-type: none"> ライカムのよう大きなショッピングセンターがほしい。 デパート等大型店がほしい。 コンビニがほしい(通学路) 	

(2) 設問に対する回答

(1) 隣近所の人にあいさつしたり、声をかけられたりすることがあるか。	<table border="0"> <tr> <td>1. 毎日のようにある</td> <td>138件 (20.5%)</td> </tr> <tr> <td>2. ときどきある</td> <td>417件 (61.8%)</td> </tr> <tr> <td>3. ほとんどない</td> <td>113件 (16.7%)</td> </tr> <tr> <td>4. 無回答</td> <td>7件 (1.0%)</td> </tr> </table>	1. 毎日のようにある	138件 (20.5%)	2. ときどきある	417件 (61.8%)	3. ほとんどない	113件 (16.7%)	4. 無回答	7件 (1.0%)		
1. 毎日のようにある	138件 (20.5%)										
2. ときどきある	417件 (61.8%)										
3. ほとんどない	113件 (16.7%)										
4. 無回答	7件 (1.0%)										
(2) 豊見城市を住みよいと感じるか。	<table border="0"> <tr> <td>1. 住み良い</td> <td>320件 (47.4%)</td> </tr> <tr> <td>2. やや住み良い</td> <td>271件 (40.1%)</td> </tr> <tr> <td>3. あまり住み良くない</td> <td>60件 (8.9%)</td> </tr> <tr> <td>4. 住み良くない</td> <td>16件 (2.4%)</td> </tr> <tr> <td>5. 無回答</td> <td>8件 (1.2%)</td> </tr> </table>	1. 住み良い	320件 (47.4%)	2. やや住み良い	271件 (40.1%)	3. あまり住み良くない	60件 (8.9%)	4. 住み良くない	16件 (2.4%)	5. 無回答	8件 (1.2%)
1. 住み良い	320件 (47.4%)										
2. やや住み良い	271件 (40.1%)										
3. あまり住み良くない	60件 (8.9%)										
4. 住み良くない	16件 (2.4%)										
5. 無回答	8件 (1.2%)										
(3) 身近な地域について困っていることはあるか。	<table border="0"> <tr> <td>1. ある</td> <td>49件 (7.3%)</td> </tr> <tr> <td>2. ややある</td> <td>92件 (13.6%)</td> </tr> <tr> <td>3. あまりない</td> <td>53件 (7.9%)</td> </tr> <tr> <td>4. ない</td> <td>460件 (68.1%)</td> </tr> <tr> <td>5. 無回答</td> <td>21件 (3.1%)</td> </tr> </table>	1. ある	49件 (7.3%)	2. ややある	92件 (13.6%)	3. あまりない	53件 (7.9%)	4. ない	460件 (68.1%)	5. 無回答	21件 (3.1%)
1. ある	49件 (7.3%)										
2. ややある	92件 (13.6%)										
3. あまりない	53件 (7.9%)										
4. ない	460件 (68.1%)										
5. 無回答	21件 (3.1%)										

12. 市民意識調査の集計結果より

◎回収状況 発送数：3,000件 回収数：972件 回収率：32.4%（郵送による配布・回収）

①家族構成

- ・家族構成は、「夫婦と未婚の子」が3割半ば、「夫婦のみ」や「一人暮らし」が約2割となっています。
- ・「夫婦のみ」は、年代が高いほど多くなる傾向にあります。「70代」が約4割でもっとも高いです。
- ・「一人暮らし」は、「50代」以上で割合が高いです。

②住宅の形態

- ・住宅の形態は、「持家(一戸建て)」が約5割でもっとも高く、「賃貸のアパート・マンション」が約3割で比較的高いです。
- ・「賃貸マンション・アパート」は若い世代で割合は高く、「20代」が5割半ばと半数以上を占めています。
- ・小学校区別では、「持家(一戸建て)」は「長嶺小学校区」が約8割でもっとも高く、次に「座安小学校区」の6割半ばとなっています。
- ・「賃貸のアパート・マンション」は「上田小学校区」が約5割でもっとも高く、次に「ゆたか小学区」の約4割となっています。
- ・「公営住宅(団地等)」は「豊見城小学校区」が約4割で、他の校区と比べて非常に高いです。

③居住年数

- ・市内への居住年数は、「15年以上」が約6割でもっとも高いです。
- ・「15年以上」は年代が上がるとともに高くなる傾向。特に40代以降でその傾向が見られる。「70代」では8割半ばを占めています。
- ・「1年未満」「1～3年未満」「3～5年未満」は年代が高いほど割合は低くなります。
- ・小学校区別にみると、「15年以上」は、「長嶺小学校区」「座安小学校区」「豊見城小学校区」が各7割台と高く、「豊崎小学校区」が2割あまりでもっとも低くなります。

④出身地

- ・出身地は、「市外」が約6割でもっとも高く、次に「県外」の1割半ばで、合わせると市外出身者が7割半ばを占めます。
- ・市内出身者は2割半ばです。市内出身者を小学校区別にみると、「長嶺小学校区」「座安小学校区」がそれぞれ2割半ばで比較的高いです。「とよみ小学校区」、「豊崎小学校区」、「ゆたか小学校区」は1割未満と低く、特に豊崎小学校は1.6%となっています。

⑤住みごころ

- ・市の住みごころは、「住みよい」が5割半ばでもっとも高いです。次に「普通」の約4割となっています。
- ・小学校区にみると、「住みよい」は「豊崎小学校区」が6割あまりを占めもっとも高いです。「長嶺小学校区」はこの回答が約4割で、もっとも低くなっています

⑥地域環境の評価

地域環境について、「妊娠」、「子どもを育てる環境」など11項目を評価していただきました。

- ・良い、悪いの割合を比べてみると、「良い」とする割合が高いのは、「妊娠・出産」、「子育て」、「青少年健全育成」、「通勤や買い物」、「医療機関」、「治安」の6つ。
- ・特に「通勤や買い物」と「医療機関」は4割前後が「良い」と回答しており、他の項目より高くなっていますが、その反面、回答には地域差があり、「通勤や買い物」は「長嶺小学校区」と「座安小学校区」では2割台で他地区より割合が低く、「医療機関」は「豊崎小学校区」が3割弱で他地区より低くなっています。

⑦現在の隣近所とのつきあいの状況

- ・隣近所とのつきあいの状況は、「挨拶をする程度」が約4割、「立ち話しをする程度」が2割となっています。
- ・「近所づきあいはしていない、しようと思わない」といった、近所づきあいを拒否する人は6%となっています。
- ・年代別にみると、挨拶する程度のつきあいは、「20代」と「30代」は5割半ばで高くなっていますが、年代が高くなるほど割合は低くなります。
- ・反対に、立ち話しをする程度のつきあいは、年代が高いほど、割合も徐々に高くなる傾向にあり、「70代」では2割半ばとなっています。
- ・「近所づきあいをしていない、しようと思わない」は、「20代」が1割半ばでもっとも高く、年代が上がると、割合は低くなる傾向にあります。

⑧今後の隣近所とのつきあいの意向

- ・今後の隣近所とのつきあい方については、「立ち話しをする程度」の希望が2割あまりともっとも高く、「挨拶をする程度」「困ったときに相談したり、助け合うようなつきあい」がそれぞれ2割程度となっています。
- ・年代別にみると、「立ち話しをする程度」の意向と「挨拶をする程度」の意向については、いずれも年代が上がるとともに、割合は下がりますが、「困ったときに相談したり、助け合うようなつきあい」の割合が上がる傾向にあります。

⑨近所づきあいの考え方（複数回答）

- ・近所づきあいの考え方については、「地域の防犯のために必要」が7割あまりでもっとも高く、次に「台風など災害が起こった時の助け合いのために必要」が6割半ば、「日頃の生活の中で、地域で助け合っていくために必要」が5割半ばとなっており、これら3つが他の項目より高いです。
- ・小学校区別にみると、近所づきあいに否定的な意見は、「上田小学校区」が4割あまりでもっとも高いほか、「伊良波小学校区」、「とよみ小学校区」、「豊崎小学校区」もそれぞれ3割と比較的高くなります。

⑩自治会への加入状況

- ・自治会への加入については、「加入している」が約4割。
- ・年代別にみると、「加入している」は年代が上がる割合も高くなり、「20代」が8.9%であるのに対し、「70代」では6割半ばとなります。
- ・小学校区別にみると、「加入している」は「座安小学校区」、「豊見城小学校区」、「長嶺小学校区」が約6割で他地区より高くなっています。反対に、「上田小学校区」「ゆたか小学校区」「とよみ小学校区」がいずれも2割台でもっとも低いです。
- ・住宅の形態別にみると、「加入している」は「公営住宅(団地等)」が8割あまりで極めて高く、「持ち家(一戸建て)」は5割半ばとなっています。「賃貸のアパート・マンション」では加入率は4.2%であり、非常に低くなっています。
- ・居住年数別にみると、「加入している」は居住年数「1年未満」が3.6%でもっとも低く、居住年数が長くなるほど加入率が上がり、「15年以上」では5割あまりとなります。

⑪自治会に加入していない理由

- ・自治会に「加入していない」理由は、「必要性を感じない」、「時間的なゆとりがない」が2割程度で高いほか、「加入の勧誘がない」が1割半ばとなっています。

⑫日常生活の中で手伝ってほしいこと（複数回答）

- ・地域の方に日常生活の中で手伝ってほしいことについては、「手伝ってほしいことはない」が約半数を占めています。
- ・手伝いを希望する方の意見で、具体的に手伝ってほしいこととしては「台風など災害時、緊急時の手助け」、「見守りや安否確認の声かけ」が2割程度で、この2つの手伝いを希望する声が高いです。

⑬日常生活の中で手伝ってもよいと思うもの（複数回答）

- ・地域の方へ日常生活の中で手伝ってもよいと思うものについては、「台風など災害時、緊急の手助け」が約4割、「見守りや安否確認の声かけ」が3割半ばとなっています。また、「地域の行事・イベント」(2割半ば)、「話し相手」(1割半ば)も比較的高いです。
- ・「台風など災害時・緊急時の手助け」は「乳児」や「幼児」のいる世帯が5割程度で高くなっています。

⑭地域活動・行事への参加状況

- ・地域活動への参加については、「参加したことがない」が5割あまりです。「参加している」は2割半ばとなっています。
- ・年代別にみると、「参加したことはない」は年代があがるとともに割合は低くなり、「20代」の7割あまりに対し、「70代」では3割となっています。
- ・「参加している」は、年代が上がるとともに割合も高くなっており、「20代」の8.9%に対し、「60代」「70代」ではそれぞれ3割台となります。
- ・小学校区別にみると、「参加している」は「長嶺小学校区」「座安小学校区」「豊見城小学校区」がそれぞれ3割台後半で、他の地区より高いです。
- ・自治会の加入の状況別にみると、「参加している」は「加入している」が5割あまり、「加入していない」が7.2%となっています。加入者の割合が、未加入者の割合を大きく上回っています。

⑮地域活動に現在は参加していない・参加したことがない理由（複数回答）

- ・地域活動に参加していない理由としては、「時間的な余裕がないから」と「どこで、どんな活動をしているのかよく分からない」がそれぞれ3割半ばとなっています。
- ・また、「いっしょに参加する仲間(知人)がいないから」や「誘いがないから」が約2割あります。
- ・活動がよくわからない、仲間がいないといった理由については、活動の周知や参加への誘いを行うことで、活動への参加者は増えることが考えられます。

⑯地域の支え合いに期待すること・必要に思うこと（複数回答）

- ・地域の支え合いに期待すること(必要に思うこと)については、「災害や緊急事態が起きた時の助け合い」が6割半ばでもっとも高いです。次に「一人暮らし高齢者等の見守りや声かけ」の5割半ばとなっています。

⑰ボランティア活動に参加したことがない理由（複数回答）

- ・ボランティア活動へ参加したことがない理由については、「どこで、どんな活動をしているのかよく分からない」と「時間的な余裕がないから」が4割半ばで高くなっています。
- ・年代別にみると、「どこで、どんな活動をしているのかよく分からない」は「20代」と「50代」がそれぞれ5割台で高いです。「時間的な余裕がないから」は「30代」から「40代」にかけてそれぞれ5割前後となっています。

⑱今後のボランティア活動への参加意向

- ・今後のボランティア活動への参加意向については、「参加したい」が1割あまり、これに「時間等、生活にゆとりができれば参加したい」の5割あまりを合わせると、参加したいと考えている人が6割あまりを占めます。
- ・小学校区別にみると、「参加したい」は「伊良波小学校区」が14.1%ともっとも高く、「座安小学校」が7.7%と最も低くなります。また、「時間等、生活にゆとりができれば参加したい」は「豊崎小学校区」が60.4%と最も高く、「上田小学校区」と「ゆたか小学校区」が各40%台と低くなります。

⑲参加してみたいボランティア活動（複数回答）

- ・今後、参加してみたいと思うボランティア活動については、「地域の環境衛生活動」が約5割でもっとも高く、続いて「地域行事等の活動」が3割半ば、「高齢者等への支援」が3割あまりとなります。
- ・性別にみると、「青少年の健全育成」、「地域の環境衛生」、「地域行事等」、「交通安全」の4つのボランティア活動の意向については、いずれも「男性」の割合が高く、中でも「地域の環境衛生活動」では「女性」の割合を27.8ポイント上回っており、男女差が最も大きくなります。
- ・女性の方では、「高齢者等への支援」や「子育て家庭への支援」、「障害者への支援」、「地域の福祉活動」が男性より高く、中でも「子育て家庭への支援」では「男性」の割合を24.2ポイント上回っています。

⑳重点を置くべき地域福祉の施策

- ・今後、市が重点を置くべき地域福祉の施策については、「いじめ、児童虐待、高齢者虐待、DVなどの早期発見、早期対応策の充実」、「生活困窮世帯の子どもへの支援」が4割程度でもっとも高いです。
- ・また、「福祉教育の推進」と「台風などの災害時に避難支援等が必要な人への対策」がそれぞれ3割半ば、「生活困窮世帯への支援対策」が3割であり、これら3つの施策が各3割と比較的高くなります。

13. 地域福祉計画審議会委員からの意見のまとめと今後の方向性

市民意識調査結果、第2次計画の取り組み点検・評価、小アンケート結果などを踏まえて、審議会委員の皆さんから、市の地域福祉の課題や取り組むべきこと等を出してもらいました。

<p>(1) 市の生活課題・福祉課題は？</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域福祉の人材育成 ・ボランティア活動の活性化 ・リーダーの育成や確保（若い世代等） ・子どもの安心、安全の確保 ・子どもの貧困問題 ・個人情報の取扱の問題（福祉マップ等を作っても公にできない） ・自治会の組織率の向上 ・若い人たちの意見が見えない ・地域福祉推進委員会の活動がミニデイだと誤解されている ・地域のつながりが弱い（一生懸命取り組んでいるが・・・） ・地域連携の強化策を「具体的に」提示する必要がある。 ・独居高齢者の見守りが必要。（孤立化する方への手だて） ・移動手段の確保（福祉バスの運行） 	<p>【声のまとめ】 ※大きく2つに分けられる</p> <p>①組織の強化・活性化</p> <p>リーダー・人材確保・育成</p> <p>自治会の活性化</p> <p>地域福祉推進委員会の活性化</p> <p>地域同士の情報共有 ＝活動を報告したり、課題を共有したり。 →具体策を考える機会</p> <p>②具体的な方法</p> <p>若い世代を集める</p> <p>子どもを中心に！ ＝地域の安全、あいさつ、子ども会、地域の将来</p> <p>モデル的に取り組む ＝具体的な取り組みを！</p> <p>地域支援隊をつくる ＝気軽に参加できるもの</p> <p>孤立化防止＝独居高齢者＋若者世代も</p>
<p>(2) 今後取り組むべきことは？</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・若い世代を集めて地域活動に結びつける（若い世代の活躍） ・「あいさつ、声かけ運動」を積極的に取り組む ・「支援隊」をつくる ・福祉推進委員会の活性化 ・ターゲットを絞り込みながら進める（優先順位） ・リーダーの育成 ・情報の共有化（連絡会、報告会、その他） ・自治会の組織率の向上 ・自治会組織の活発化 ・子ども会の組織化を増やす ・支援が必要な世帯の把握 ・社会的孤立の解決 ・居場所づくり ・地域共生社会の実現 	
<p>(3) 市としての強みは？</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちへの「あいさつ、声かけ」は積極的である ・面積が小さいので地域全体がまとまりやすい ・平均年齢が低く若い人材が豊富 ・地域に人情が残っている ・若い人たちを中心とした活動 ・「孫達にとって良い地域」を目指して祖父母世代が頑張っている 	